

メディアの発達

講師

望月 俊男

今回学ぶこと

さまざまな人が互いに情報を発信したり交換したりする中で、新たな取り組みやビジネスが生まれるインターネット。インターネット登場前は、一人の人がたくさんの人とつながってそうした取り組みをすることは困難でした。一方で、インターネットで情報発信をしたり情報を閲覧したりするときには記録が残ります。そうした記録は、犯罪や迷惑行為対策に使われるほか、Web サービスを改善するのにも使われています。こうしたネットメディアの発達がどのように社会で生きているのかを学んでいきましょう。

番組を見る前に知っておこう

ソーシャルメディア、ソーシャルネットワーキングサービス (SNS)、プロバイダ責任制限法、アクセス記録、クッキー (Cookie)

多様な情報発信

インターネットを使って誰でも情報発信したり情報交換をしたり、あるいは、それを情報共有して一緒になって新しい情報を作り上げたりすることができるようになりました。そのようなことを実現するメディアをソーシャルメディアといいます。皆さんが使う SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) は、その中でも人と人をつなぐことが目的となっているサービスをいいます。

ソーシャルメディアは、ウィキ (wiki) のようなオンライン辞典や質問サイト、あるいは口コミサイトなどで、他の (顔も見たことがない) 人たちと共同で情報を制作・共有して、ときに価値のある情報を生み出したり、あるいはクラウドファンディングのように人々に資金提供を呼びかけてビジネスや仕事を成し遂げたりするのに、役立っています。誰もが情報発信でき新たな価値を生み出すことも多々ありますが、その情報発信や利用にあたっては、信ぴょう性や信頼性、安全性に注意が必要です。

匿名性と記録性

インターネットでのコミュニケーションを完全に匿名で行うのは困難です。たとえ個人情報を書き込まなくても、発信元やアクセス記録などがコンピュータに残ります。とくにSNS やソーシャルメディア上でいじめや事件に巻き込まれたりあるいは迷惑行為をしてしまったりすると、問題解決のために、このようなアクセス記録が活用されます。プロバイダ責任制限法はそのための情報開示について定めています。

アクセス記録の活用

アクセス記録は、上記のようなトラブルのとき以外にもさまざまな場面で活用されています。たとえば、Web サイトでどこがよくクリックされるかを分析することで、ユーザにとってあるいは効率の良いビジネスにとって、よりよい Web ページのデザインを提案することができます。また、Web ページを閲覧するときにサーバとの間で交換されるクッキー(Cookie) という情報を活用すると、スムーズに Web 上のサービスを使ったりショッピングサイトで閲覧履歴をもとに商品を提案してもらったりすることができます。こうしたアクセス記録を活用することで、新しいビジネスが生まれる可能性もあります。

一方で、ユーザは自分のプライバシーに配慮する必要もあります。Web ブラウザを設定することで、クッキーの情報交換をコントロールすることができます。自分自身の情報管理を上手に行っていくことが大切になります。